

8部

通信制大学院コーナー

【本コーナー以外のご参照ページ】

＊コロナ禍における学習相談・自習室について p. 5～6 参照

＊仙台駅東口キャンパス他のご案内 p. 60参照

＊【重要】昨今の日本郵便の郵便事情について p. 4 および p. 48参照

2022年度入学生数

ご入学おめでとうございます。通信制大学院へは、14名（社会福祉学専攻8名・福祉心理学専攻6名）の方がご入学されました。心よりお喜び申し上げます。

1 今年度修了希望の方へ

今年度はいよいよ修士論文を提出し、修了を目指されることとなります。下記をご確認のうえ修了までの流れをしっかりと把握しましょう。

- (1) 2022年度の修士論文作成を許可された方へ前年度末に「面接指導票」、
「通信指導票」を送付しています。
- (2) 4月初旬に『2022年度 学年暦』を送付しました。各レジユメの提出
締切日、修士論文提出締切日、修了者の最終レポート提出期限や提出方
法などを把握し計画的に取り組みましょう。
- (3) 昨年度配付済み『通信制大学院ガイドブック2021』 p. 64～83（2章
修士論文の作成）より、下記の①～⑥を再度確認してください。
 - ① 修士論文執筆の準備として、前年度までに書き方や方法論の学習を
お勧めしていますが、十分でない方は『通信制大学院ガイドブック
2021』 p. 36～67を確認し、急ぎ理解を深めること。

- ② 指導を受ける手続きについては、『通信制大学院ガイドブック 2021』p. 72～73を必ず読み、疑問点は早めに解消するようにすること。
- ③ 第2回中間レジュメ提出時（10/25締切）に「修士論文提出願」を添付いただきますが、それまでに担当教員から論文指導を十分に受けていない、論文の進捗状況が芳しくないなどの場合、修士論文の提出が許可されません。計画的に、論文を執筆するようにしてください。
- ④ 後半は修士論文作成に集中できるよう、授業科目の単位修得が必要な方は、7月（遅くとも9月）までにはレポートをご提出ください。
- ⑤ 修士論文提出締切日は、2023年1/20（午後4時）。
- ⑥ 修士論文の最終試験となる口述試問の日程変更は応じられません。

●研究倫理審査申請について

- ・研究活動にあたり、研究方法によっては、必ず実施前に、本学大学院研究倫理審査委員会の審査を受け、実施を認められる必要があります。
※特に、アンケート、ヒヤリングやグループインタビューなどの対面・接触を伴うデータ収集を行う場合、新型コロナウイルスの感染防止について、どのような対象に、どのような配慮をしているか、記載が必要です。
- ・詳細は、今年度の修士論文作成が許可となった方へ、4/7送信のメール“「修士論文研究倫理審査申請について（ご連絡）2022」”でもご確認ください（添付ファイルの下記書類も要確認）。
「研究倫理審査チェックシート」「①研究倫理審査申請書」
「②研究協力同意書」「③研究協力同意撤回書」
- ・上記①～③等を、指導教員の指導を受けて作成し、指導教員の署名捺印いただいたうえ、次ページの締切日までに申請（提出）してください。

【研究倫理審査申請締切日】

1	6月の第二水曜日	<提出先> ウェルコム21大学院事務室 【注】通信制大学院事務室あてに送付する方は、 締切日前日（火曜日）必着で送ってください。
2	7月の第二水曜日	
3	8月の第二水曜日	

※審査にはおおよそ2週間を要します（余裕をもってご申請ください）。

※審査承認後に変更が生じた場合、その都度、変更申請書の提出が必要。

●第1回中間レジュメについて

(1) 第1回中間レジュメの提出及び執筆要領

提出締切日	2022年8/19(金)必着
第1回中間レジュメについて	『通信制大学院ガイドブック2021』 p. 69参照
提出方法・執筆要領	『通信制大学院ガイドブック2021』 p. 70参照
指導について	『通信制大学院ガイドブック2021』 p. 72～73参照

(2) レジュメは、提出前に指導教員から指導を受けてください。

(3) 構想レジュメの受付は、5/17で終了。

2 (新入生の方) 日本学術振興会「研究倫理 e-ラーニングコース」受講について

入学時にご案内しておりました、日本学術振興会「研究倫理eラーニングコース (e-Learning Course on Research Ethics) [eL CoRE]」の受講につきまして、4月初旬に日本学術振興会より、個人の大学メールアドレス宛にID・パスワードの通知がされていますのでご確認ください。

【受講方法】

- ①日本学術振興会より届くID・パスワードを確認。
- ②下記サイトにアクセスし、ID・パスワードを入力、ログインして受講。
(<https://elcore.jsps.go.jp/top.aspx>)
- ③受講完了後は「修了証書」のPDFデータを下記提出先へメール提出。

提出先	本学 研究企画推進課 永浦【 nagaura@tfu.ac.jp 】宛
提出締切日	2022年8/31必着

※注意：提出先は、通信制大学院事務局とは異なります。

3 学習について

●レポートや在宅レポート試験などについて

『通信制大学院ガイドブック』p. 25～28を参照し、下記についてご確認ください（提出締切日は『2022年度 学年暦』を参照）。

- (1) 履修方法SRの区分が演習・応用・選択演習の科目は、スクーリング全日程終了後に『科目別ガイドブック2022』記載の事後課題レポートを提出（事前課題やスクーリング中の課題とは異なります）。
- (2) 事後課題レポートは、スクーリングに出席した年度内に提出（今年度の提出締切1/10）。提出方法は、『科目別ガイドブック2022』p. 6～7の「1 課題レポート提出」を参照。
- (3) 課題レポートと試験レポートは、提出方法が異なります。初回の提出は、『科目別ガイドブック2022』p. 6～14を要確認。
- (4) R科目の課題レポートで、今年度単位修得したい科目の提出締切は、1/10（今年度修了予定者：12/1）。

*締切後1ヵ月程度でレポート返却となります。この時点で評価が再

提出となった場合は、今年度の単位修得はできなくなります。

- (5) 在宅レポート試験（単位修得試験）は、各科目のレポート2課題に合格後、1週間程度で事務室から試験問題（試験レポート）を送付します。
- (6) 試験レポートの最終提出締切は、2/20（今年度修了予定者：1/24）。

*最終締切で提出した試験レポートの評価が不合格（再提出）の場合や締切に遅れた場合、次年度以降の単位修得となります。『通信制大学院ガイドブック』p. 26参照。

- (7) 試験レポートの締め切りは、年4回（『2022年度学年暦』参照）。

*今年度中に単位修得したい科目については、3回目の試験レポート提出までに終わらせましょう（最終の4回目ではそれまでの評価が不合格〔再提出〕になった科目や来年度に単位修得しても構わない科目を提出するように計画）。

●スクーリングについて

『通信制大学院ガイドブック』p. 27～29をお読みいただき、下記の点について再度ご確認ください。

- (1) スクーリングは、全日程出席が必須（事前課題への取り組みも必要）。
*日程の一部欠席や遅刻・早退をした場合は、単位の修得不可。
- (2) 今年度履修登録をしたSR科目について、やむを得ない事情によりスクーリングを欠席する場合は『通信制大学院ガイドブック』p. 28の「受講手続き」の2）に基づき事務室にご連絡ください。
- (3) 昨年度までに履修登録済みで、スクーリングに出席していないSR科目について、今年度の出席を希望する方は、履修登録時にお申し出が必要です。お申し出のない方は出席できません、ご了承ください。

*事前事後課題は、『科目別ガイドブック2022』記載の課題に取り組んでください。

- (4) 演習科目の単位を修得するためには、社会福祉学専攻では同研究科目、福祉心理学専攻では同選択講義科目の単位修得が必要です。
- (5) 今年度のスクーリング日程については、『2022年度 学年暦』のほか本学通教育部・通信制大学院ホームページの「2022年度スクーリング日程一覧」を参照。
- (6) 6～8月の会場でのスクーリングは下記のとおりです（日程順）。
- 【注意】** 演習科目は、状況に応じて会場ではなくリモートで実施する場合があります。福祉心理学研究法特論・実践事例検討は、状況に応じて日程変更（中止）する場合があります。

日程	科目	対面（会場）スクーリング教室
6/18・19	福祉心理学研究法特論	東口キャンパス3階「演習室4」
7/1・2	障害者福祉演習	東口キャンパス3階「演習室2」
7/1～3	心理：演習（学校・教育心理学）	東口キャンパス5階「52教室」
7/9・10	心理：演習（健康心理学）	東口キャンパス3階「演習室4」
7/30・31	精神保健福祉演習	東口キャンパス3階「演習室3」
8/6・7	児童・家庭福祉演習	東口キャンパス3階「演習室3」
8/13・14	社会福祉政策演習	東口キャンパス3階「演習室2」
8/20・21	心理：演習（発達心理学）	東口キャンパス3階「演習室4」
8/27・28	ソーシャルワーク演習	東口キャンパス5階「52教室」
9/3・4	地域福祉演習	『with』156号でご案内
9/17・18	社会福祉原理演習	『with』156号でご案内
9/24・25	高齢者福祉演習	『with』156号でご案内
10/22	精神保健福祉演習	『with』156号or157号でご案内
11/5・6	心理：演習（司法・犯罪心理学）	『with』156号or157号でご案内
11/12・13	実践事例検討	『with』156号or157号でご案内

4 / その他

- (1) 進級手続者へ『2022年度学年暦』『科目別ガイドブック2022』など副教材を送付済み（2019年入学の福祉心理学専攻の方は変更がないため、引き続き『科目別ガイドブック2019』をご使用ください）。
- (2) 履修登録用紙を提出締切日4/13までに送付いただいた方には、順次教科書発送を行っています。教科書に間違いや不足などがないか、同封の手紙でご確認ください。

*不足などについては、到着後2週間以内にお知らせください。それ以後の不足については、購入となりますので予めご了承ください。

修士論文作成にあたって

総合福祉学研究科
福祉心理学専攻修了生

菅原佐和子

この春、指導教員の先生のご指導や大学院事務室職員の皆様のサポートにより、無事に修士論文を提出し修士課程を修めることが出来ました。論文作成を終えた今、拙い経験談ではありますが私が大切だと思うこと、役に立ったと思うことをご紹介します。

スケジュール管理の重要性

スケジュール管理は論文作成において最も重要だと思います。本学の論文提出までのスケジュールは丁寧に組まれており、1年次12月の修士論文計画書の提出に始まり、3回のレジュメ提出、夏の研究倫理審査申請に乗ることが出来ていれば論文の大枠は順当に作成できます。それとは別に修士論文計画書の提出を終えたら自分の執筆スケジュール（どの時期に論文のどの部分に取り組むのか）を立てることをお勧めします。私は質問紙調査を行い、2年次5月～6月に質問紙作成、7月に倫理審査申請、8月～9月に質問紙の郵送・回収（回収を待つ間に論文の「問題」「方法」を執筆）、10月～11月にデータ分析、12月～1月に「結果」「考察」というスケジュールで進めました。手帳の年間カレンダーを活用し、執筆スケジュールの他にレポート締切日や指導の見通しも書き込み、常に全体把握に努めました。指導は通信・面接どちらも6回程受け、通信（メール）で質問して助言を頂く→反映させて内容を作る→面接（対面）で助言を頂いて修正・完成するという方法で活用しました。指導も主体性を持って受けること、先生のご都合があるため早めに相談や調整を行うことをお勧めします。

参考図書

資料収集は主にインターネット上で行いました。図書館はコロナ渦で開館時間が短く仕事をしながら利用するのは困難でした。執筆にあたって特に参考にした書籍は、松井豊（2010）「改訂新版心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために」、鈴木淳子（2016）「質問紙デザインの技法（第2版）」、小宮あすか・布井雅人（2018）「Excelで今すぐ始める心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける」です。松井（2010）は、論文執筆に関する基本事項を丁寧に網羅しており、各パートを書く上でとても助かりました。鈴木（2016）も同様に質問紙の作り方から丁寧に説明してあります。小宮・布井（2018）はデータ分析をExcelで行えるHADという無料統計ソフトの使い方の紹介本です。実際の解析は担当教官とSPSSで行うのですが面接指導でしか使えないため、自学で分析して理解を深めるのに役立ちました。心理統計に関する分かりやすい説明も多く載っています。「通信制大学院ガイドブック」の参考図書欄に目を通すと良いと思います。質問紙作成やデータ分析では福祉心理学研究法特論のノートが役立ちました。1年次に授業を受けた時にしっかりまとめておくことをお勧めします。

失敗談

論文執筆で最も気をつけたいのは基本的なミスです。私は2つありました。一つはデータ入力段階の入力間違いに気づかずに分析を行い、提出1か月前の12月中旬の結果や考察を書いている時に発覚し、分析のやり直しとなりました。二つ目は提出した論文の表に間違いがあり口述試験で副査の先生にご指摘頂きました。幸い本文には影響せず表の修正と論文一式の再送付で済みましたが、致命的なものであったらと思うとぞっとします。

何度も確認しましたがミスは起きました。基本的なことですが論文の内容以外にも細心の注意を払うこと、そのために時間的余裕を持つことをお勧めします。

修士論文の執筆は、研究内容そのものを深める以外にも計画性や細部への注意力が問われる大変な作業でした。しかし自分の関心事や疑問点が実証される楽しさや、自分の仕事における信念の中核的なものを手に入れることができた非常に価値ある時間でもありました。論文執筆が皆さんにとっても良いものになることを願っています。

修士論文作成の振り返り

～研究の楽しさと可能性を知ることに向けて～

OB MESSAGE

総合福祉学研究科
社会福祉学専攻修了生

佐藤 和美

最近、殊更耳にするようになった言葉「学び直し」。私にとって修士論文に取り組んだことは、数々の未知に出会い、新たなチャレンジを与えてくれる「学び直し」の機会ともなりました。

冒頭このように述べると、あたかも順風に修論を書き進めたように捉えられるかもしれませんが、然にらず。停滞する自分自身に怖さを感じてしまうほどに、更には提出期限を知ることになるカレンダーを見ることを避けてしまうほどの状態でした。そんな私の体験が、次の方々の修論への取り組みにおいては効果的に活かして頂けることを意図して、主に「調査」について振り返りながら文字にしていきます。

行動してみることで次が創られる

調査の困難と醍醐味

現実に立脚しオリジナリティのある修論にしたい、そんな想いもあり福祉施設の職員を対象にしたアンケート調査を実施し、この解析を基に研究を進めることにしました。

しかし、調査依頼数と回答数が一致するとは限らないこと、回答率を高くすることの難しさに直面することになりました。時はコロナ禍、施設職員は多忙を極め、接触も制限される中でした。

そこで活きたことはICTの活用でした。その一つは、調査の目的や方法を伝える説明動画を録画・アップロードし、そのURLを依頼文書に貼付したことです。また、メールや電話で依頼をしていく過程で「対象者に直接説明できる機会を作りましょう。」という福祉施設の理事長さんも現

れ、約束の時間にリモートで繋ぎ、説明・依頼させて頂くこともできました。有難いことに、ここでは説明当日からGoogleアンケートに回答が続々と送られてくるようになりました。また、調査の依頼先を紹介して下さる方々にも出会いました。

こうしたやり取りの中で聴こえてきたことは、「その研究は、切実に施設が必要としている。」という声でした。

とにかく行動すると物事が動き出す・協力者が現れてくれる、という感謝がこみ上げる体験と共に、こうして時間を割いて協力してくれる方々、必要としておられる方々に、この研究成果を還元していきたい、という想いがバイタリティとなってきていました。そして、研究は孤独なものという予想は大きく覆されました。

さらには、修論は大変なものらしい、何からどう始めればよいのか?と悶々としていた自分には信じ難いのですが、完成度を高めたい、もっと知りたい、学びたい、という欲求が湧いていたのです。やってみたからこそ分かる研究のおもしろさ、やり甲斐に気づき始めたのでした。

一方でやり直すとしたら、調査を遅くても8月頃にはスタートさせることです。書くことも憚られますが、私が依頼を開始したのは10月でした。

今なら、先行研究を調べ、仮説から質問項目を精査し、プレ調査を実施して傾向を探り、そこから更に必要な研究を進め、解析方法や変数を定めながら回答を収集していく方法と時間を確保します。

先行研究からの学びの拡大

研究の「型」を知り、批判的分析の視点を養う _____

「論文10点の要旨をまとめる」という課題提出が必要な科目を履修しました。10点の要旨を既定の字数内でレポートする、その中に批判的分析を含むコメントも含むというものに最初は愕然としました。しかし、多くの

論文に触れておくことは、研究の「型」を自ずと知ることに繋がりました。さらに、批判的分析の視点を養うことは、自らの論文を俯瞰できることや展開における不足や脆弱さへの気づき、研究の限界を明確にすることに活かされました。論文の存在を知っておくだけでなく、この作業を通しておくことは、修論作成時の資料としても有効だと思われます。

レジュメの提出はゴールを近づける

時間と量を細分化し、軽やかに進めてみる

修論に求められる字数を前に、フリーズしてしまうかもしれません。しかし、既に提出してきた課題レポート等の量を合わせると、全くの未経験でもないこととなります。そして、研究の「型」は、修論を機能的に進めてくれるものとして活かすこともできます。

例えば私は、一つの目的にかなう家を建てるように修論を捉え、「研究の背景」「研究の目的」等を、各部屋を仕上げていくような感覚で、それぞれのフォルダを作り保存していきました。

この時に、期日ごとに提出してきた各レジュメや調査のための研究倫理審査申請書は、それぞれのフォルダの中で活かされるものとなりました。そこから振り返ると、各レジュメは提出することのみを目的としてしまわず、完成に向けて自分を引っ張ってくれる起点と原稿の蓄積として活かすことが進捗を助けてくれると考えます。

面接指導での言葉はサーチライト

院生にとっての資源を活かす

さまざまな論文や文献、調査結果等に触れているうちに、修論の軸や目的を見失ってしまうことがありました。そんな時、指導教員であった三浦

剛先生から面接指導時に届いてくる言葉一つ一つは、見るべきところを示唆し、未知に取り組む私から勇気や可能性を引き出してくださり、次に進ませてくれるものでした。その指導時の言葉のメモは、研究の目的に立ち返ることに何度も活かしてきました。

そして、指導教員はもちろん、事務室の方々やコミュニケーションラインを持つ院生同士の繋がりなど、それぞれの役割のもとに応援してくれる資源を活かしていくことは、自分を止めないデザインでもあると振り返ります。また、現在開講されているTFU実学臨床研究セミナーへの参加は、学びの場・修論に向かう触発の場としてはもちろん、この院を選んだことを誇らしく思う時間ともなると感じます。

おわりに

研究の楽しさと可能性を存分に味わうことを意図して _____

修士論文は「研究の楽しさ」や「自分の可能性」と出会う要素をたくさん秘めています。是非それを、満喫できるゆとりの中でご自身に存分に体験させて頂きましたら、スロースタートにより苦節と暗黒の日々まで自分に与えてしまった私としては嬉しい限りです。